

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 7 年 3 月 28 日

事業所名 ASKAclub大平

保護者等数(児童数)

回収数 4人 割合 57 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	4					
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に依り、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4					整理整頓を徹底し常に同じ位置に用具を配置、気になるおもちゃはしまう等して、分かりやすくなるよう心がけています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4					
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	4					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子ども達の支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4					
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	4					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	1		1		ASKAスポーツクラブと連携し、発表会やキャンプなどのイベントをご案内しています。今後は地域で開催されるイベント等も調べて、情報提供を増やしていければと思います。各児の段階に合わせてお知らせやご案内をしていますこと、ご了承ください。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3	1				
保護者へ の 説明	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	3	1				
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	1	2		1		児の様子や傾向から個別で対応方法の検討や助言をしました。しかし、親子活動・親子トレーニングのようなプログラムは、ご家族の都合や時間が限られているため、実施が難しかったです。今後、検討していきます。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	4					
	14 定期的に保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2	2				

の 説 明 等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	2		1	現在、父母会を設けておりません。項目12に合わせて、イベントの開催に伴い、保護者同士がコミュニケーションを取れる場を今後検討していきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	3				
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3				
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	3				
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを作成し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	1	1		1	緊急時対応マニュアル等は作成しております。改めて見直し、新年度にHUGより配信いたしますので、ご確認よろしく申し上げます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	1		1	避難訓練や救急講習を定期的に実施しています。できるだけまとまった人数で行うため、集団活動の時間に実施しています。
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	3				
	23	事業所の支援に満足しているか	3				

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 7 年 3 月 28 日

事業所名 ASKAclub大平

保護者等数(児童数)

回収数 14人

割合 82 %

	チェック項目	はい			ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	13	1			
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	5	2		対象としている段階や活動内容から、バリアフリーな造りは少ないです。安全面の配慮から用具の状態確認や破損した物・場所の修理を行っています。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	14				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	13	1		他事業所で「たいそう」より「トレーニング」と声かけをするとやる気になるそうです！	子供達の様子を見て、声掛けの工夫も幅を広げられるように努めています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	6	2	親子活動などで兄弟も参加できると良い。 学童のように兄弟も通えると良い。	ASKAスポーツクラブと連携し、発表会やキャンプなどのイベントをご案内しています。また、課外活動で公共施設の利用、他の人との交流があります。各児の段階に合わせてお知らせやご案内をしていますこと、ご了承ください。ご家族も参加できるようなイベントも、今後検討していきたいです。
保護者への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13	1			
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	1	1	「面談」という形では話す機会が少ないかもしれません。	施設からのみならず、お子様の様子やご家族のタイミングで面談のご希望をお伝えいただければ、行うことも可能です。いつでもお気軽にお伝えください。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	8	1	夏の親子活動が楽しかったのもっとあると良いと思う。	現在、父母会を設けておりません。イベントの開催に伴い、保護者同士がコミュニケーションを取れる場を検討していきたいです。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12	2			日頃よりご理解、ご協力ありがとうございます。特にトラブルもなく1年間を終えることができました。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14				
14 個人情報に十分注意しているか	12	2				
非常時等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	2			緊急時対応マニュアル等は作成しております。改めて見直し、新年度にHUGより配信いたしますので、ご確認よろしく申し上げます。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	11	3			避難訓練や救急講習を年に2～3回できるだけまとまった人数の日に実施しています。利用日が重ならず参加できなかったお子様には、後から確認をする等し、共通理解を図っています。

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	13	1	長期休みは今日は何をするんだろう？とワクワクしています。	
	18	事業所の支援に満足しているか	14		いつも有難うございます。今後もよろしく申し上げます。運動だけでは無く、カルタやトラップなどビジョントレーニングやSSTなどして下さりありがとうございます。	
	19	送迎は正しく行われているか	12		送迎を利用していないので分かりません。送迎は親がしていますが活動の際は満足しています。	
	20	運動療育は役に立っているか	14		学校の体育でマットや跳び箱の見本になっている様です。	
	21	今後やってほしい療育はあるか	6	3	5	長期休みでのお出かけが楽しみなようです。スタミナをつけてほしい。十分です。水泳教室。学校での体育はていこうがあるようなので引きつづき体を動かす支援をお願いします。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 7 年 3 月 28 日

事業所名 ASKAclub大平

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	バリアフリーではないが、備品の管理や破損・修復に努めている。	運動器具が増え器具庫のスペースが狭くなってきたので、ラックの設置や不要物の撤去をして、収納スペースの確保や物の出し入れがし易くなるようにしていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		HUGの活動連絡の機能からお知らせを流し、結果の公表をする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者評価は行っていないため、今後必要な場合に応じて、検討していきたい。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		月に1回の全体会議時にも研修をしている。また、毎月テーマを決めて、緊急時の対応や活動の注意事項等について研修し、共通理解を図っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		学年や能力に応じてグループ分けをしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		その日活動前に活動の流れや誰が何を担当するか、児の心身の状態から個別対応が必要と想定される場合には、誰が対応するか等を話し合い共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	送迎の関係で後日になる事もある。送迎があるため、その日のうちにできないことがあるが、次の日に必要な振り返りや共通理解を図っている。	新年度になると新規の利用者、スタッフの配置の変化があるので、振り返った事や共有事項は管理者から各スタッフに伝える等し、普段居ない曜日の出来事や児の様子も各スタッフが把握できるようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1		日常的に医療ケアが必要な子は、現状居ないが、服薬や状態の把握に努めている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2		未だ前例がないが、今後このような可能性があるので、福祉事業サービスの把握に努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4			アスカスポーツクラブの体操の生徒と、発表会等、共に活動している。活動で児童館に行ったり、地域のスポーツイベントや催しに参加している。ASKAスポーツクラブのキャンプや競技会も連携している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			送迎時に直接お伝えしたり、HUGの活動報告で行っている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1		ペアレント・トレーニングとまではいかないが、親子イベントを開催し、親子の交流の機会を設けた。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			今年度から各種加算項目の名称や単位変更等があったため、内容を確認し、お知らせの通知や同意書の作成をした。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		保護者から親子イベントが楽しいという意見があったので、親子の関わりや保護者同士がコミュニケーションを図れる場を作るように、また親子イベントも検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			HUGから定期的に会報を発行している。また、機械の操作が苦手な方向けや確実な周知が必要な時には紙ベースでもお知らせを発行している。
	35	個人情報に十分注意している	5			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			新年度に向けて改めて見直し、HUGの活動連絡からマニュアルの公表をする。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			課外活動時の非常時に備え、救急箱や予備の水分が入った緊急リュックを用意し、スタッフが持ち歩くようにしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			月に1度行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1			基本的に身体拘束は行わない。やむを得ず必要な事例があった際には説明・記録・計画の記載と対応をする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 7 年 3 月 28 日

事業所名 ASKAclub大平

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2 職員の配置数は適切である	5			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5			運動器具が増え器具庫のスペースが狭くなってきたので、ラックの設置や不要物の撤去をして、収納スペースの確保や物の出し入れがし易くなるようにしていきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		毎朝、分担をして車両・部屋全体を清掃し、活動スペースを清潔に保てるようにしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		HUGの活動連絡の機能からお知らせを流し、結果の公表をする。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者評価は行っていないため、今後必要な場合に応じて、検討していきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		毎月テーマを決めて、緊急時の対応や活動の注意事項等について研修し、共通理解を図っている。また、月に1回の全体会議時にも研修をしている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			今年度から個別支援計画の形式や記載要項が新しくなったため、今後もスタッフ間で記載事項の確認をよく行い共有を図っていきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		その日活動前に活動の流れや誰が何を担当するか、児の心身の状態から個別対応が必要と想定される場合には、誰が対応するか等を話し合い共有している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		市の保育親と連携し、交流会や施設見学を行っている。	市町村で行っている幼児サポートや親子教室等の情報を把握し、様々な情報提供をしていけるようにしたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	1		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	1		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	アスカの体操競技会等。	様々な経験・体験の機会を設ける事ができるよう、スタッフの指導・サポートの質の向上を目指し、企画の考案をも一丸となって行っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1		今後、幼児を対象に親子参加のイベントの開催等、親子で一緒に活動できそうなことを検討していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		保護者様の意向や個人情報の配慮もあるので、このような機会は慎重に検討していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			新年度に向けて改めて見直し、HUGの活動連絡からマニュアルの公表をする。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5				
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		月に一度行っている。		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5				身体拘束の対応がやむを得ず必要な事例があった際には説明・記録・計画の記載と対応をする。